



送り出し国により脆弱性の違いがあるのか？  
中国、ベトナム、フィリピン、インドネシアの例より

2022年6月30日

弁護士 湯川 雄介  
ヤンゴン事務所代表 西村あさひ法律事務所



## 湯川 雄介 Yusuke Yukawa



パートナー  
ヤンゴン事務所代表  
Partner  
Representative of Yangon Office

[y.yukawa@plus.nishimura.com](mailto:y.yukawa@plus.nishimura.com)

オンライン名刺：

<https://ap.sansan.com/v/vc/4vckvzlzgz6uurmv6psbzcdepj/>

- |       |  |
|-------|--|
| 1998年 | 慶應義塾大学法学部法律学科卒業<br>日本電気株式会社(NEC)入社           |
| 2000年 | 弁護士登録  |
| 2007年 | スタンフォード大学ロースクール卒業(LL.M.)                     |
| 同年    | シリコンバレーのフェンウィック・アンド・ウ<br>エスト法律事務所            |
| 2008年 | ニューヨークのクリアリー・ゴットリーブ・ス<br>ティーン・アンド・ハミルトン法律事務所 |
| 2013年 | ヤンゴン事務所代表(現任)                                |

### 【関連所属団体等】

- 日本弁護士連合会 国際人権問題委員会 幹事(2020～)
- ビジネスと人権ロイヤーズネットワーク 運営委員
- 責任ある外国人労働者受入れプラットフォーム(JP-MIRAI)会員
- International Bar Association, Business Human Rights Committee, Human Rights Law Committee, Diversity and Equality Law Committeeメンバー

## ■ 企業の「ビジネスと人権」への取組支援

- ・ 人権デュー・デシリジェンス(国内における外国人労働者関係、ミャンマー)
- ・ 個別問題対応(ミャンマー、ウイグル等)
- ・ 人権NGOとのエンゲージメント、メディア対応
- ・ 人権関連契約条項
- ・ 現代奴隷ステートメントのレビュー
- ・ 社内セミナー(サステナブル委員会、関係各部署横断セミナー等)

## ■ JETRO関連活動

- ・ 貿易投資相談(「ビジネスと人権」担当) 初代専門アドバイザー
- ・ [外国の人権法\(豪州現代奴隷法\)の翻訳](#)

## ■ 教育

- ・ 慶應義塾大学ロースクール:「ビジネスと人権」に関する初の講座(2022~)
- ・ 学習院大学: Asian Business Law(2022~)

## ■ 執筆等

- ・ 詳説 ビジネスと人権(日本弁護士連合会編、共著)(2022年5月)
- ・ グローバルスタンダードと送出国法令の解説(共著、2022年5月)
- ・ 「法務的観点から『ビジネスと人権』を考える」(NBL2020年6月15日号)
- ・ 「グローバルサプライチェーン供給契約と人権保護」(NBL2021年11月1日号~)
- ・ 「座談会 サステナビリティの思考と実践」(NBL2022年5月15日号~)



技能実習生の失踪者数の推移(平成25年～令和3年)

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
総 数	3,566	4,847	5,803	5,058	7,089	9,052	8,796	5,885	7,167
ベトナム	828	1,022	1,705	2,025	3,751	5,801	6,105	3,741	4,772
中 国	2,313	3,065	3,116	1,987	1,594	1,537	1,330	964	896
カンボジア	-	-	58	284	656	758	462	494	667
ミャンマー	7	107	336	216	446	345	347	250	447
インドネシア	114	276	252	200	242	339	307	240	208
タイ	64	50	34	37	95	82	61	62	74
フィリピン	52	56	88	91	89	65	85	48	47
モンゴル	39	29	36	31	31	38	42	36	31
バングラデシュ	-	-	-	-	-	19	17	13	1
ラオス	-	-	-	-	-	14	16	3	8
そ の 他	149	242	178	187	185	54	24	34	16



(注1) 失踪者数は、在留資格「技能実習」をもって本邦在留中に、監理団体等から外国人技能実習機構に対し、「行方不明」となった旨の技能実習実施困難時届出書が提出された者を集計したもの(技能実習終了後に、帰国困難等の理由により他の在留資格へ変更となった者は含まない。)

(注2) 「カンボジア」は平成27年分から、「バングラデシュ」及び「ラオス」は平成30年分から集計方法を見直したため計上が可能となったものである(それ以前の「カンボジア」、「バングラデシュ」及び「ラオス」の数値については、「その他」として集計していたため計上できない。)

## ■ 移民の脆弱性に対するIOMのDoMVモデル



IOM HANDBOOK ON PROTECTION AND ASSISTANCE TO MIGRANTS VULNERABLE TO VIOLENCE, EXPLOITATION AND ABUSE (IOM, 2019)より

### 個人的要因:

年齢、性別、人種/民族的アイデンティティ、性的指向、性自認、健康、各種リソースへのアクセス等

### 家庭・家族要因:

家族規模、世帯構造、社会経済的地位、移住歴、雇用、生活、教育レベル、男女差別等

### 地域要因:

質の高い教育機会、ヘルスケア、社会サービスの利用可能性、資源への平等なアクセス、生計を得る機会等

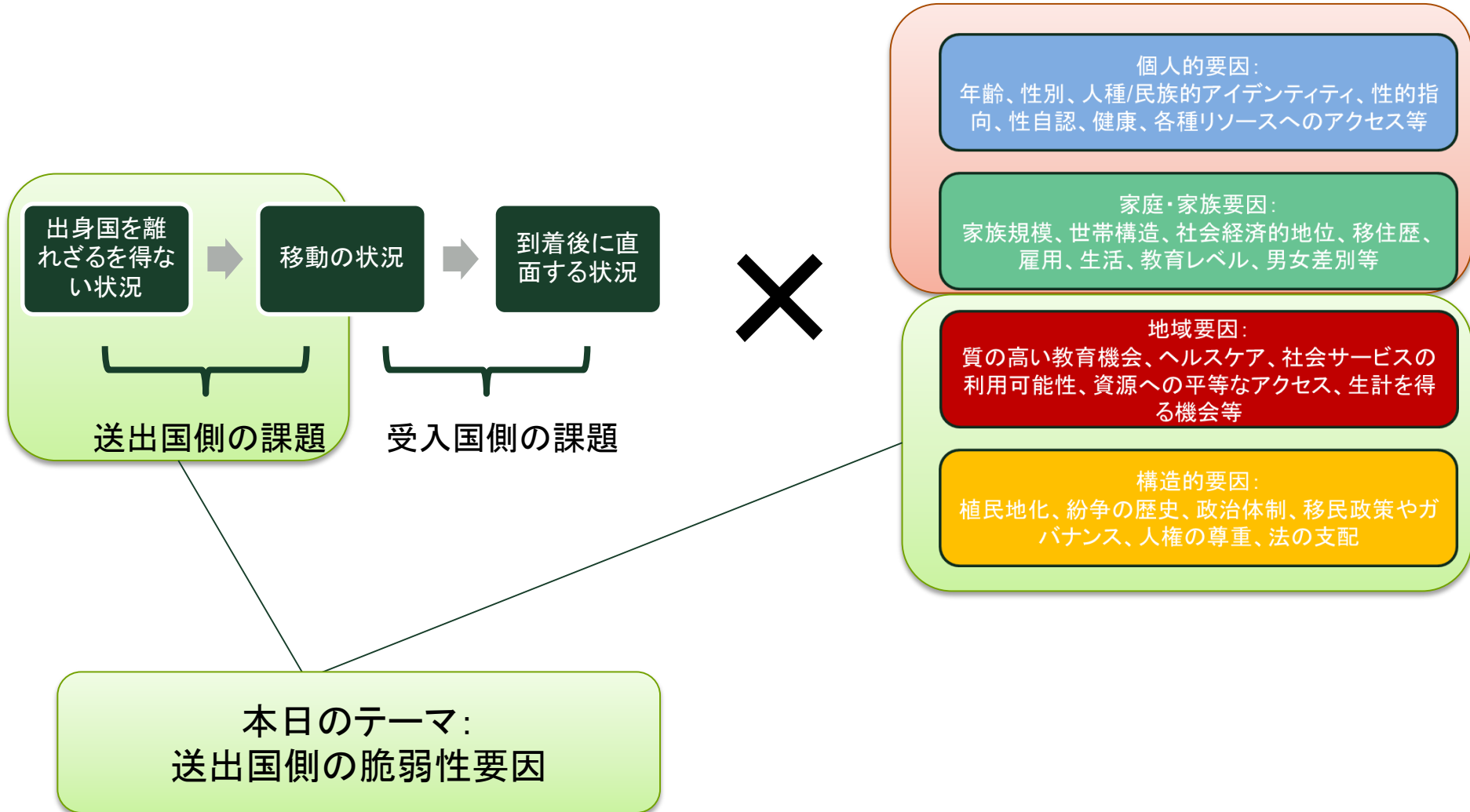
### 構造的要因:

植民地化、紛争の歴史、政治体制、移民政策やガバナンス、人権の尊重、法の支配

- OHCHR(国連人権高等弁務官事務所)の「Migrants in vulnerable situation」
  - *Migrants may find themselves in vulnerable situations as a result of the situations compelling them to leave their country of origin, the circumstances in which they travel or the conditions they face on arrival, or because of personal characteristics such as their age, gender identity, race, disability or health status.*




- *vulnerability to human rights violations is the result of multiple and intersecting forms of discrimination, inequality and structural and societal dynamics that lead to diminished and unequal levels of power and enjoyment of rights.*
- 構造的・社会的なダイナミクスと複数の差別、不平等等の交差による







# 参考：(主として)受入国側のイシュー

- 


Principle 1: Primacy of human rights. . . . .

人権の優先
- 


Principle 2: Non-discrimination . . . . .

無差別
- 


Principle 3: Access to justice . . . . .

司法へのアクセス
- 


Principle 4: Rescue and immediate assistance . . . . .

救済と即時の救助
- 


Principle 5: Border governance . . . . .

国境管理
- 


Principle 6: Human rights-based return. . . . .

人権に基づく帰国
- 

Principle 7: Protection from violence and exploitation. . . . .


暴力と搾取からの保護
- 

Principle 8: Ending immigration detention . . . . .


移民局における拘束の廃止
- 

Principle 9: Protecting family unity . . . . .


家族の結束の保護

- 


Principle 10: Migrant children . . . . .

移民子女
- 


Principle 11: Migrant women and girls . . . . .

移民女性及び女子
- 


Principle 12: Right to health . . . . .

健康を享受する権利
- 


Principle 13: Right to an adequate standard of living . . . . .

適切な生活水準を享受する権利
- 


Principle 14: Right to work . . . . .

労働の権利
- 


Principle 15: Right to education . . . . .

教育を受ける権利
- 


Principle 16: Right to information . . . . .

情報を得る権利
- 


Principle 17: Monitoring and accountability . . . . .

モニタリングと説明責任
- 

Principle 18: Human rights defenders . . . . .

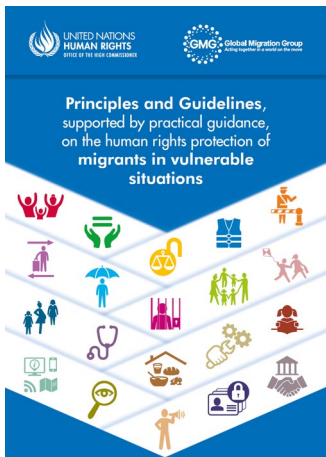
人権擁護者
- 

Principle 19: Data collection and protection . . . . .

データの収集と保護
- 

Principle 20: Migration governance and cooperation. . . . .

移住のガバナンスと協力



“Principles and Guidelines, supported by practical guidance, on the human rights protection of migrants in vulnerable situations” (OHCHR/Global Migration Group, 2018)



## ✓ 経済状況

- 低賃金(稼ぎたい)
- 失業率
  - そもそも現地における就労機会があるか
  - 帰国後の就労機会
- 就労環境

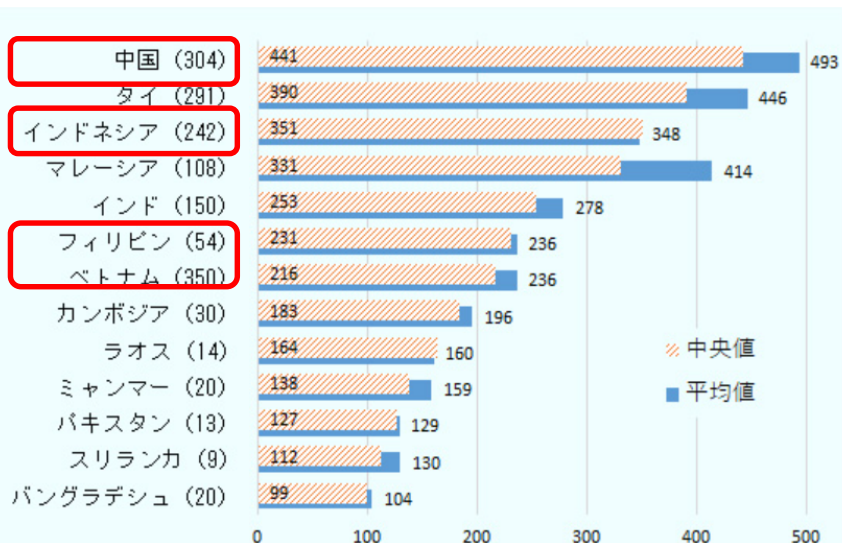
## ✓ 送出国プロセスにおける問題

- 過剰な債務負担
- 研修等、自分を守るための知識の習得のプロセスの担保

## ✓ 労働者を保護する法制度

- 債務負担の禁止、上限規制
- 派遣先国における処遇等(国家間協定)
- 帰国後の支援の仕組み等
- これらの実効性を担保する為の環境・体制(法執行の状況、汚職等)

図1：在アジア日系製造業の作業員・月額基本給  
(中央値と平均値の比較、単位：ドル)



注：カッコ内は有効回答企業数。

出所：2019年度アジア・オセアニア進出日系企業実態調査の個票データより集計

	1人当GDP (米ドル)
ブルネイ	27,466
カンボジア	1,513
インドネシア	3,870
ラオス	2,630
マレーシア	10,402
ミャンマー	1,400
フィリピン	3,299
シンガポール	59,798
タイ	7,189
ベトナム	2,786
ASEAN	4,500
日本	40,122
中国	10,500
韓国	31,489
世界平均	10,926

(出所) World Bank, World Development Indicators database

(注) 1人当たりGDPは、名目GDPを人口で除して当室で試算

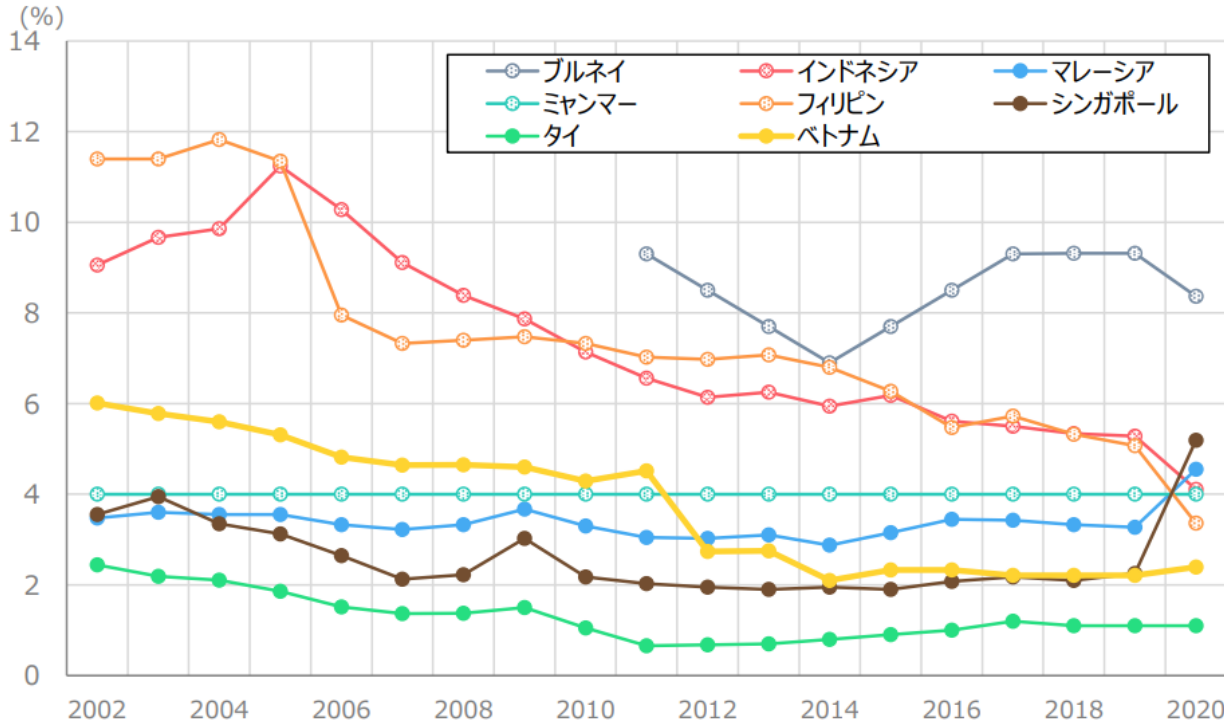
JETROウェブサイト「アジアの労務コスト比較、意外に大きい賃金水準の地域差」より

<https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2020/cbdf0cefc691ae25.html>

外務省「目で見えるASEAN-ASEAN経済統計基礎資料-」(令和3年8月)より

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000127169.pdf>

- 比較的失業率が高かったインドネシア、フィリピン及びベトナムは大きく改善。  
2020年は新型コロナウイルスの影響もあって全体的に悪化傾向。



(出所) IMF, World Economic Outlook database

外務省「目で見えるASEAN-ASEAN経済統計基礎資料」(令和3年8月)より

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000127169.pdf>

ベトナム: 3.9%(2021年、都市部)

(JETRO概況・基本統計より)

[https://www.jetro.go.jp/world/asia/vn/basic\\_01.html](https://www.jetro.go.jp/world/asia/vn/basic_01.html)

フィリピン: 5.8%(22年3月)

(NNA Asiaより)

<https://www.nna.jp/news/show/2332467>

インドネシア: 5.83%(22年2月)

(NNA Asiaより)

<https://www.nna.jp/news/show/2333367>

中国: 6.1%(2022年4月末、都市部)

16-24歳調査失業率: 18.2%

(JETROビジネス短信より)

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/05/3f19f94b90fd8223.html>

その他、例えばフィリピンにおいては若年層失業率が高い(2019年において14.4%)とされる。JETRO地域・分析レポートより

<https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/special/2019/0303/390d9735f469d1f6.html>

# Global Slavery Index

Country Name	Governance issues	Lack of basic needs	Inequality	Disenfranchised groups	Effects of conflict	Overall weighted average
Myanmar	58.1	43.8	26.1	46	70.2	65.9
Philippines	50.5	35.3	45.7	36.4	69.3	60.2
Thailand	50.9	21.8	35.3	45.1	51.9	51.1
China	61.4	20.5	26.9	32.4	44.2	50.6
Indonesia	43.7	38	35.8	53.3	32.2	50.5
Vietnam	53.6	23.2	28.1	32.5	18.5	41.5
Malaysia	36.2	28.4	39.6	41.2	27.8	39.2
Japan	21.5	13.1	15.5	31.9	17.8	13.8
Singapore	30.8	16.3	5	18.7	9	13.4

Walk Free Global Slavery Index 2018より

“Estimated vulnerability to modern slavery by country, Asia and the Pacific”

<https://www.globalslaveryindex.org/2018/findings/regional-analysis/asia-and-the-pacific/>

# 各国の派遣規制等

	ベトナム	フィリピン	インドネシア	中国
送り出しの歴史等	1980年代の旧社会主義国(COMECON)の枠組みの中での送り出し→2006年～民間送り出し機関による送り出し	1970年代以降国家戦略としての送り出し政策→フーロール・コンテンプラシオン事件(1991年)を契機として、95年法の制定、国際的枠組みに基づく保護へ	1990年代以降フィリピンと並ぶ送り出し国に。9.11テロによる打撃→移民労働者のフォーマル部門への移行へ。フィリピンに倣った2004年法の制定等	1978年の改革・開放路線、2001年の「国民経済社会発展5カ年計画」における対外労働協力力の定め等。
送り出しの仕組み	ベトナム企業が労働者を派遣	労働者と派遣先国の企業間の雇用(職業紹介)	労働者と派遣先国の企業間の雇用(職業紹介)	対外労働合作(送り出し機関と海外雇用主間の契約)
送出機関に対する手数料及びその上限規制	45万円～90万円 上限規制あり 3年契約:3,600USD以下 1年契約:1,200USD以下	基本給1ヶ月まで(日本は禁止)	約15～40万円 法令上の上限禁止規定無し	送出機関と労働者がサービス契約を締結した場合にはサービス料の受領可能。但し、25%の上限あり。
その他送出機関に支払われる費用	・事前教育費:規定上約200USD ・仲介者への仲介手数料:相場500-1,000USD ・預託金(保証金):[上限3,000USD] ・寮費、食費等	・研修費、教育診断費等 実質負担額10万円程度?	・教育費、食費、寮費等	?
移住労働者保護の枠組み	契約によるベトナム人労働者海外派遣法(2006→2009年法)	1987年憲法、1995年移住労働者法 出国者研修	2004年移住労働者法→2017年移住労働者保護法	対外労働合作管理条例等
技能実習に関する二国間取決め(協力覚書)	あり(2017年発効)	あり(2017年発効)	あり(2019年発効)	なし
その他脆弱性の原因 たりうる事項	仲介を担う組織・個人の存在(?)	ブローカーの存在(?)	個人エージェントの介在(?)	?

\* 上記はいずれも基本的に技能実習生についてのもの

\* ビザ、移動費、保険、受入国側で生ずる費用等は含んでいない

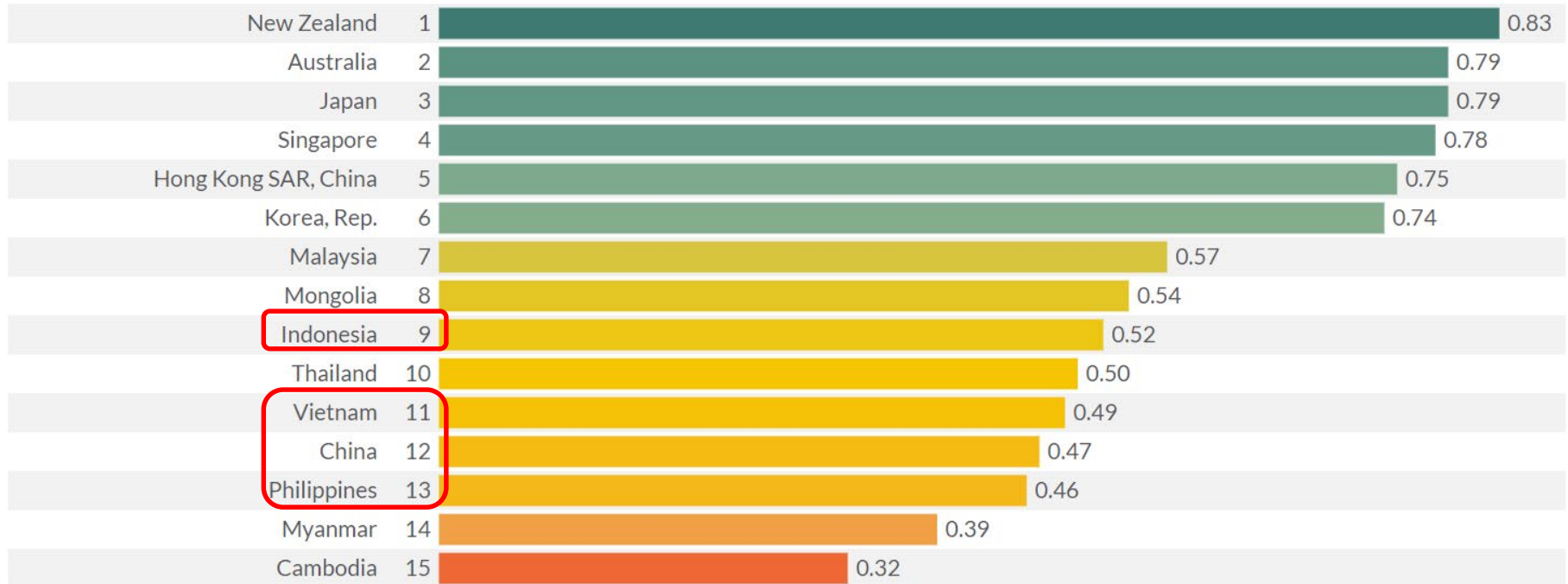
\* 二国間協力覚書については、厚生労働省ウェブサイトによる(<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000180648.html>)

\* 上記は以下の書籍等に基づき、講演者が作成

- ・ 田辺国昭・是川夕監修、国立社会保障・人口問題研究所編「国際労働移動ネットワークの中の日本 誰が日本を目指すのか」(2022)
- ・ 山田美和編「東アジアにおける移民労働者の法制度 送出国と受入国の共通基盤の構築に向けて」(2014)
- ・ 慶應義塾大学大学院法務研究科・グローバル法研究所、西村あさひ法律事務所編著「円滑に外国人材を受け入れるためのグローバルスタンダードと送出国法令の解説」

# WJP Rule of Law Index (1)

Countries Scored by Overall Score



[WJP Rule of Law Index \(worldjusticeproject.org\)](http://worldjusticeproject.org)

# WJP Rule of Law Index (2)

	REGIONAL RANK	Government Powers	Absence of Corruption	Open Government	Fundamental Rights	Order and Security	Regulatory Enforcement	Civil Justice	Criminal Justice	OVERALL SCORE
New Zealand	1 / 15	0.86	0.88	0.82	0.82	0.89	0.86	0.78	0.74	0.83
Australia	2 / 15	0.81	0.81	0.80	0.78	0.87	0.81	0.74	0.72	0.79
Japan	3 / 15	0.72	0.82	0.70	0.78	0.92	0.79	0.77	0.77	0.79
Singapore	4 / 15	0.67	0.91	0.63	0.67	0.93	0.86	0.80	0.78	0.78
Hong Kong SAR, China	5 / 15	0.61	0.85	0.73	0.61	0.93	0.81	0.75	0.71	0.75
Korea, Rep.	6 / 15	0.71	0.67	0.71	0.75	0.83	0.74	0.77	0.71	0.74
Malaysia	7 / 15	0.57	0.58	0.41	0.51	0.78	0.57	0.64	0.55	0.57
Mongolia	8 / 15	0.54	0.43	0.50	0.58	0.76	0.50	0.55	0.49	0.54
Indonesia	9 / 15	0.67	0.40	0.54	0.51	0.68	0.55	0.45	0.38	0.52
Thailand	10 / 15	0.46	0.47	0.49	0.47	0.71	0.46	0.48	0.43	0.50
Vietnam	11 / 15	0.45	0.41	0.46	0.45	0.77	0.44	0.46	0.46	0.49
China	12 / 15	0.31	0.53	0.38	0.27	0.81	0.49	0.52	0.45	0.47
Philippines	13 / 15	0.48	0.44	0.50	0.39	0.63	0.48	0.45	0.31	0.46
Myanmar	14 / 15	0.39	0.44	0.36	0.27	0.64	0.45	0.35	0.26	0.39
Cambodia	15 / 15	0.28	0.23	0.26	0.33	0.67	0.27	0.25	0.25	0.32

[WJP Rule of Law Index \(worldjusticeproject.org\)](https://worldjusticeproject.org)

なお、Transparency International のCorruption Perceptions Index(2021)によるランキング(全180カ国)による順位は次の通り (<https://www.transparency.org/en/cpi/2021>)。

ベトナム:87位 フィリピン:117位 インドネシア 96位 中国 66位



- ✓ マクロな経済的要因はどの程度脆弱性と関連するのか
- ✓ 個人・家庭等の(いわばミクロ的な)要因と地域・構造要因の重み・関連性
- ✓ 地域・構造要因は国全体で捉えるのか、それとも地域レベルで考えるべきか
- ✓ 送出国側の脆弱性要因と受入先国側の脆弱性要因の関係性
- ✓ 送出国側の法制度等の形式的な存在と、現実の違いは何に起因するのか
- ✓ 当該違いはいわゆるガバナンス・ギャップなのか。その内実は何か？
- ✓ ガバナンス・ギャップであるとした場合、受入国政府はどのような取組ができるか
- ✓ 受入先企業と「ビジネスと人権」上の取組
  - 人権デュー・ディリジェンスのリスク特定の場面でなすべきこと
  - 「是正」「救済」として何が求められるか
  - これはいわゆる「構造的問題」なのか。そうだとした場合の対応。